

1 学校経営ビジョン 令和3年度スローガン「築け 地域との新たなつながり 拓け 学校の可能性 照らせ 生徒の未来」 コミュニティ・スクールとして地域資源を学びに取り入れ、総合学科の特色を活かした教育を実践し、これからの社会や地域に貢献できる人材の育成を目指す					
2 目指す学校像 ○ 生徒一人ひとりに寄り添い、全職員で支援する体制の整った学校 ○ 新しい教育に挑戦し、学力の定着を図り、生徒の望む進路を実現できる学校 ○ 地域に開かれ、地域に愛され、地域の生徒が通いたいと望む学校					
3 本年度の重点目標 (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 指導力・専門性の向上 (3) 特色・魅力ある学校づくり					
重点目標	具体的取組	評価項目	具体的取組又は達成状況	自己評価	評価 学校運営協議会評価 及び 意見
基本的な生活習慣の確立	生徒理解と支援のための教育相談体制の充実	いじめ・不登校対策委員会	・毎月定例会として実施 ・管理職、年次主任、担任による情報共有及び早期対応による生徒支援	3	○教育相談体制を充実するためには、スクールカウンセラー等の活用も重要であると考えます。 ○学校要覧の「いじめ防止プログラム」からも、早期発見・早期対応を重要視していることがうかがえます。 ○学校要覧の各部ごとの努力目標や実践事項、〇〇計画の推進が確実に成果をあげていると思います。 ○現在、子どもたちを巡って「愛着障害」(attachment disorder)の問題が指摘されています。「愛着障害」とは、幼児期の愛情不足から生じる精神的不安定や孤独感のことであり、精神科医の岡田尊司氏は、最近の子どもたちの問題行動はすべてこの「愛着障害」に起因していると言っています。幼児期に親から受けるべき愛情が不足すると、子どもはその後自己肯定感を欠きそれが問題行動を起こすことにつながる、極端化するやがては死に至るといいます。このような視点から子どもたちを見ると、その程度は異なっても、大なり小なり「愛着障害」と無縁ではないということが分かります。社会の変化に伴い、生活様式も大きく変化して、子どもたちは世話をしてくれる人を失いつつあります。学校現場ではよく子どもに引き合い寄り添うことの必要性が説かれますが、問題はその向き合い方寄り添い方です。傾聴・受容・共感のカウンセリング技法は必須です。 ○いじめの問題も「愛着障害」という視点から見ると、また違った見え方ができます。「人権学習」という権利の学習では解決しない理由が分かってくると思われます。いじめの現場は、被害者、加害者、傍観者の3つに大別できますが、どうすれば傍観者の中からいじめを中止させる勇気を持つ子どもを育てることができるか。これは演習としてアクティビティなしには難しいと思われそうですが、解決するためにはスキルが必要です。 ○いじめによる自殺者の報道を目にするたびに、いじめを受けているサインに気づけなかったのかと思う。 ○令和3年度においても、コロナ禍・オミクロン株で行事取組が大変だったと思います。その中での対応等ご苦労様でした。 ○ちょっとしたことでいじめ・不登校対策委員会の場で職員の方が情報を共有し、見守ってあげる体制づくり・教職員一体となった組織づくりが大事だと思う。 ○人と違ったことでいじめや差別をしない、受けない環境づくりを学校生活全体の中で作り上げたいと思う。 ○人権学習の場で自分や他人の人権について正しく理解していくことが、これからの平和的な国際社会の実現に貢献できる人間の育成につながると思う。 ○対策委員会において、どの位の案件が審議され、実際に解決に至ったのか知りたい。家庭の問題を抱えている生徒もいるのではないかと。
		教育相談週間	・各学期1回実施 ・相談希望者の増加		
		人権学習	・1年次6回、2年次3回、3年次2回実施 ・コロナ対策として、一部リモートによる講演で実施		
読書活動の推進	朝の読書	朝の読書	・毎朝10分間実施。 ・年間10回の絵本の読み聞かせを実施 担任、副担任による読み聞かせ(6回) 図書委員(生徒)による読み聞かせ(2回) 養護教諭による読み聞かせ(1回) 図書部職員による読み聞かせ(1回)	3	○高校生活は自分の能力を高める大切な時期であることから、生徒自身が読書活動の重要性を自覚して欲しい。 ○数社の新聞比較もされているかと思えます。 ○アピールできる状況であれば、本好きの生徒の状況、図書室の本の冊数・ジャンルごとの充実度等も触れると良いと思います。 ○デジタル化社会を迎えて、最も危惧されているのは活字離れです。とにかく全教育活動を通じて活字に親しむ機会を増やすこと。1日にたった10分間といえども、継続すれば朝の10分間読書の効果は抜群です。確実に生徒達を変容させます。本庄高校の核として継続されることを望みます。 ○読み聞かせの効果も侮れません。各分野で実施されていることを頼もしく思います。今後定例化していくとさらに本好きの生徒が増えるでしょう。また、最終的には、ブックトークまで持って行かれることを期待しています。 ○携帯・パソコン利用が主になってきている状況の中、読書に活字を読み書きする習慣はよい事だと思いますので、今後も継続してほしい。 ○読書は創造力や教養が磨かれ、視野が広がり、知識が増え、脳の活性化につながるなどいろいろな効果が期待される。 ○毎朝10分でも継続する事で習慣化していくので、大変良い事だと思う。
		読書活動の推進			
生活習慣の確立支援	規範意識の醸成	規範意識の醸成	・学期始めや学期終わり等には年次集会を開催し、容儀検査を実施 ・朝の SHR 前に「立腰指導」を実施 ・CO1 グランプリ(遅刻ゼロを目指すもの)を実施し、毎月 クラスごとのランキングを出し、年毎に表彰	2	○企業側のニーズである基本的な生活習慣、言葉遣い、マナーなどの具体的な指導・支援が重要であると思えます。 ○説明に苦慮するような校則等は残っていないかと思えます。 ○立腰指導(姿勢教育)は呼吸法(腹式呼吸・深呼吸)とセットでされるとより効果が上がるかと思えます。就職面接等、あらゆる場面にも生かされると思えます。 ○遅刻0でなく「定時着席率100%」など、マイナス面を出さない表現が望ましいかと思えます。 ○相互評価はお互いを認め合い、自己肯定感まで高められるような工夫をされているかと思えます。 ○今後アナログ手帳はもちろんのこと BYOD 端末での自己管理ツールも使いこなす必要があるかと思えます。 ○小中学校では道徳教育が「特別の教科」となって教科化されましたが、高等学校の道徳教育は従前のように全教育活動を通じて実施することとされています。ここで重要になってくるのは、全ての教育活動において道徳性の育成が視点化されているかと言うことです。規範意識が低いのは自己肯定感が低く、自分に自信が持てないことが原因となっていることが考えられます。容儀指導や「立腰指導」など形から入る指導も重要ですが、生徒の活動する場面を増やして成功体験を持たせることも規範意識の醸成にとって極めて大きな意味を持つことを看過してはならないと思えます。 ○遅刻などが多く生活習慣が確立されていない生徒は、自己管理能力が育っていません。これは大学生でも同じです。それを打破するために手帳を活用させることは大きな意味を持っていると思います。面談などの場合にも手帳を持参させて重要なこともメモさせる習慣を付けさせること、またその習慣が獲得されつつあるか教員が適宜チェックすることも重要だと思います。これも習慣化させるためには、入学時から卒業時まで継続して指導することです。 ○手帳活用については、書くことが身に付くと思いますので必要だと考えます。
		学習態度の育成	・授業において相互評価を実施		
		手帳を活用した自己管理	・書く力・自己管理能力等の定着を目指して1年次生に導入		
美化意識の高揚	部活動生の朝清掃と挨拶運動	部活動生の朝清掃と挨拶運動	・職員有志も含め、校外外で毎朝実施(野球、サッカー、剣道、フェンシング)	3	○職員が率先して清掃活動に参加していることが、全校生徒の美化意識向上につながっていると思えます。 ○いつもきれいな学校で、気持ちの良い挨拶のできる生徒達に感心しております。 ○毎朝の挨拶運動は負担にならないように輪番制になっているかと思えます。 ○校内で培った美化意識や実践力が登下校中、バス停などで自然にゴミを拾うなどの汎用的な力となっているかと思えます。 ○毎日のひたむきな練習も勿論大切ですが、野球、サッカー、剣道、フェンシングと本庄高校はある意味代表する部活動生が朝の清掃活動や挨拶運動に取り組むことは、部活動生としての内面を充実させ、自信と誇りを醸成して延びては試合結果にもプラスしてくるものと思われれます。 ○学校運営協議会の会議終了後が丁度清掃時間と重なることがありました。どの清掃区域においても、無言で黙々と清掃活動に取り組み感動的でさわやかな印象を忘れることが出来ません。「よい生徒達が育っているなあ。良い学校だなあ。これからは楽しみだなあ」と、心からそう思い、職場に帰り着くと早速校長先生に報告の電話をしたものでした。 ○校外でのごみ拾いを見かけると、挨拶もしてくれてとても気持ちのいいものです。清掃作業を継続してもらい、本庄高校の伝統にしていってほしい。 ○いつも、大きな挨拶を受け大変気持ちがいいです。
		清掃指導の徹底	・全ての清掃区域に職員を配置し、率先垂範で生徒と共に活動 ・清掃時間に各学年主任には、固定した清掃区域を割り当てず、校内美化指導の時間として巡回指導		

指導力・専門性の向上	基礎学力の定着指導	「授業の受け方5原則」	・教室掲示による周知 ・1年次においては、入学オリエンテーションで実施 ・PTA 総会及び年次 PTA での周知	2	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の目標に向け、具体的な指導・支援が定着していることを評価します。 ○検定合格や資格取得状況はこの基礎学力の定着があるからだと思います。 ○基礎学力の補充指導が必要な生徒もあると思います。きめ細かな取組がなされていると感じます。 ○2022 年度から高等学校においても学年進んで新しい学習指導要領に基づいた教育課程が実施されます。全ての教科・科目において3観点が整理され「指導と評価の一体化」が強調されていますが、問題は3 番目の目標である「学びに向かう力・人間性等の涵養」というところだと思います。アクティブラーニングの手法によってこの目標を如何に達成するか。やはり主体的なモチベーションが大きく影響すると思われます。「授業の受け方 5 原則」の徹底もモチベーションを維持するうえで基本的な要素だと思います。 ○「サクセスタイム」も総合学科本庄高校のアイデンティティとして、是非このまま残して欲しいと思います。理由は「朝の10分間読書」と同じです。 ○教職員には、「朝の10分間読書」と「サクセスタイム」がなくなったらそれはもう本庄高校ではない、といえるぐらいの共通理解とプライドを持って毎日臨んで欲しいと願います。ささやかに見えますが、生徒に与える影響力には大きなものがあります。継続は力なり、蓄積されることこそ力となります。 ○基礎がしっかりしていないと応用もできないので、基礎学力の定着をお願いしたい。 ○国数英に関しては、すべての試験に共通しているので強化が必要と思う。
		「サクセスタイム」	・外部教材を活用して毎日実施 ・文字力・計算力等の強化		
		GTZ(学力到達ゾーン)	・基礎力診断テストにおいて、1・2年次とも「国語」が向上 傾向 ・2年次において、国数英の D3 ゾーン(低学力ゾーン)が減少		
系列の専門性の向上	コミュニティ・スクール事業、校外活動等		・地域の教育資源の活用例 【食農】製パン実習、製菓実習、ホースセラピー、白玉饅頭制作実習 【商業】本庄高校マルシェ、SDGs講座 【生文】テーブルマナー講座、歩き方講座、保育講座、フラワーアレンジ講座 他	3	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクール事業の実施により、地域住民の学校に対する理解が深まっていると思います。 ○コミュニティ・スクール事業報告書の充実度からも取組の素晴らしさがよく分かります。ぜひとも継続し、発展させていってほしいです。時代やニーズ・目的に応じていつかスクラップして新しいものにシフトしていく時期を見失わないようにしてほしいです。 ○地域の教育資源が教育課程の中で生かされることほど素晴らしいことはないと思います。それはまた、「地域とともにある学校」「地域学校協働活動」を掲げるコミュニティ・スクールの教育理念でもあります。今後さらに充実させて「社会に開かれた教育課程」を模索し続けて欲しいと思います。 ○地域の活性化にもつながる頼もしい取組だと感じます。郊外活動の充実、進学・就職等生徒の今後の進路目標を決めるうえで大きく影響するものと考えてるので、いろいろな教育資源の活用を望みます。
検定合格・資格取得の充実	検定合格・資格取得状況		・日本農業技術検定7名/31名受験(R2:7名) ・プレゼンテーション作成検定3級68名/83名受験(R2:81名) ・全国高等学校家庭技術検定三冠4名/4名受験(R2:6名) ・危険物取扱者試験乙種4類2名/6名受験(R2:4名) ・危険物取扱者試験丙種4類4名/30名受験(R2:7名) ・漢検3級6名(R2:30名)・準2級3名(R2:3名)	2	3 <ul style="list-style-type: none"> ○資格取得の支援が就職・進学における高い評価と本庄高校の魅力アップにつながっていると思います。 ○他の検定、資格、おもしろそうなコンクールにも積極的にチャレンジしてほしいところです。アイデア・知見の豊富な教職員の腕の見せ所だと思います。 ○担当されている先生方は大変でしょうが、さらなる成果を期待しています。 ○生徒を送り出した中学校の立場から見ると、大変素晴らしい実績状況だと感じます。日頃より、一人一人の生徒のよさや可能性を大切に、よく伸ばしていただいていると感じています。 ○昨年に比べ受験者数が少ないので合格者が少ないのかもかもしれませんが、今年度は英検や数研がないのが寂しい気がします。 ○商業系では簿記の受験はなかったのでしょうか。 ○各種試験への取り組み姿勢は素晴らしいと思います。今後については合格率アップに努めてください。
進路目標達成	進路目標達成率	・進路決定率 94.3%(R4.1 月末時点) ・県内就職率 96%(昨年度 97%) ・宮崎国際大学(3)、宮崎産業経営大学(6) 他 ・県立産業技術専門学校(6) 他	3		
	公務員指導の充実	・公務員1次10名中9名合格 ・国富町役場・税務職・宮崎県警に内定			
教職員の授業力向上	校内研修の充実		・全教職員が「研究授業実施 ・テーマ「主体的・対話的で深い学び」「ICT を活用した授業実践」	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT 活用には、教員の指導力の向上が重要であることから、有効な研修体制を整える必要がある。 ○新学習指導要領を踏まえ、身に付けるべき資質・能力をはっきりさせて取り組まれていることと思います。 ○「主体的・対話的で深い学び」における課題解決のために、「課題自体が自分事となっているか?」「課題発見力をどの程度重視しているか?」気になるところです。 ○宮崎県「教育の情報化推進プラン」の策定を受けて今後どのように取り組まれていく予定か、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」結果が気になるところです。 ○伸びていく学校の特色の一つは全教職員の研修意欲です。それは必ず生徒に伝わります。本庄高校の明日を信じて、全教職員打って一丸となり、研鑽に勤めて欲しいものです。 ○情報通信技術の獲得はこれからの教員の資質能力として重要な意味を持っています。しかし、ただ機器を活用するだけにとどまらず、中教審答申にいう「個別最適化」した学びとは具体的にどのようなことが、絶えず検証しながらの取り組みが必要だと思います。教職員間のリテラシー格差を作らないためにも、研修を重ねてスキルの共有を図る必要があります。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現やICTの効果的な活用については、中学校の教職員も、試行錯誤しながら取り組んでいる状況です。中高職員で協働して取り組めるような機会があると、互いのよい研修の機会になると考えます。 ○コロナ禍でオンライン授業が普通になってきましたが、教職員の方の準備や対応が大変だろうと思います。 ○オンライン授業の必要性を理解しつつ、対面での授業の楽しさや面白さを実感できるような工夫をお願いします。
		ICT を活用した授業の推進	・コロナウイルス感染者及び濃厚接触者などの出席停止の生徒に対しオンライン授業の配信 ・携帯電話を活用した授業の実施 ・パソコンやプロジェクターを使った授業の展開 ・Google のソフト(クラスルーム)を活用した課題の配付 ・NHK アナウンサーを講師に迎え防災教育の実施		
特色・魅力ある学校づくり	学校運営協議会制度の活用	「本庄ひなたLABO」	利用実績 校内585名 校外81名 合計666名 (校内) ・教職員による Web 会議 ・就職や進学のための Web 面接試験 ・外部講師による Web 講座 ・教職員及び部活動生のミーティング (校外) ・インターネット検索やパワーポイント作成で利用	3	3 <ul style="list-style-type: none"> ○校外の利用者等から大変喜ばれている。コロナが早く収束し、さらに有効活用されることを期待している。 ○利用頻度や内容に応じて「本庄ひなたLABO」の機器をさらに増設できると良いかと思えます。地域や学校外の方々も気軽に利用できる場として、どんな成果物があるか掲示や発信ができると良いかと思えます。 ○学校運営協議会が開催されるたびにお世話になっています。「本庄ひなた LABO」は、外部に開かれた総合学科本庄高校の顔でもあります。「地域とともにある学校」の推進施設として、さらなる充実発展を期待しています。 ○様々な活用の在り方を工夫できるとも羨ましいスペースだと思います。 ○Web 会議等で積極的に利用されていますが、校外利用者の少なさは、ひなたLABOの存在を知らないことやパソコン・スマホが普及していることも一因と思えます。
デュアルシステムの実践研究	アンケートの結果		・本年度から実施したデュアル実習の協力事業所約 130 社 ・2年次生 107名全員参加。ただし、コロナ禍のため実習期間 は10日実施予定から3日~7日に変更 ・事後のアンケートにおいて、生徒の90%以上が「成長できた」と回答 ・協力事業所の90%以上が、「次年度も実習を受け入れてもいい」と回答 ・持続可能かつ生徒にも企業にもプラスになる成果が出た実習を今後も継続して実施	3	

部活動とボランティア活動の推進	部活動・同好会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 加入率:67.5%(R2:75.4%,R1:69.2%) 運動部合同Fizi カルテニング 5回(冬季に予定) 馬術部(個人)九州選手権大会 長友希夢2位、小田大3位 全国選手権大会 長友希夢3位 (団体)県新人大会2位、九州高等学校馬術大会4位 フェンシング 九州選抜大会男女とも団体4位(3月開催全国選抜大会出場権獲得) チームブルーベリー同好会 <ul style="list-style-type: none"> ハイスクール Expo プレゼン最優秀賞獲得 美術部、書道部、音楽部各種コンテスト入賞 	3	<ul style="list-style-type: none"> 職員の指導力で部活動のレベルアップが図られている一方、県立のため今後の職員の異動による指導力の継続が懸念される。 部活動等において大会入賞など活躍がメディアに取り上げられる部については十分認知されていると思います。入賞こそしていないが ICT・スマホを活用した合理的・科学的な活動など、生徒にとって望ましい活動をしている部の紹介もあとと良いかと思えます。生徒の工夫や努力、満足度や達成感を重要視すると良いかと思えます。 部活動は、生徒の個性が輝き、自信を獲得する重要な活動場面です。加入率の低下はコロナのせいでしょうか?本校の核となる部は他校にはない、宮崎県としても大きな期待のかかるものです。これらの部の活動実績が他の部や同好会の活動を刺激し、活性化を促進します。相乗効果で健闘して欲しいものです。 部活動やボランティア活動での本庄高生の活躍は、町民の元気の起爆剤です。ありがとうございます。 経験カリキュラムの「為すことによって学ぶ」という理念に立脚するボランティア活動は、通常の教科カリキュラムの不足を補うものです。教育課程の中に位置づけられている「総合的な探究の時間」は、時間や経費の制約もあって運用面でなかなか難しい問題があります。願わくは生徒全員が経験するのがベストですが、ボランティアである以上それは望めません。しかし、寺子屋学習支援やまんぶくマルシェへの参加、ふくろうストラップの作成など、内容的にはレベルの高いものになっているように感じます。生徒の達成感が次の新しい活動につながることを期待しています。 各部、各同好会共に素晴らしい結果だと思います。この中で、くにとみ察に入寮している生徒は何名いるのでしょうか。 くにとみ察ができ、ますます部活動の活躍が期待されます。実績が積み上がっていくことが楽しみです。 コロナ禍でイベント・行事等が中止や縮小されてことにより、ボランティア活動する場面が減ったと思いますが、積極的に参加されることに感じます。本庄高生生の参加がなくては成り立たないものがたくさんあります。 今後もボランティア精神のもと、継続していただきたい。 	
	ボランティア活動の参加状況	<ul style="list-style-type: none"> 活動実績 10回(のべ177名参加) これまで継続して参加していたものに加え、寺子屋学習支援やまんぶくマルシェなどにも参加 生徒会を中心とした生理用品の寄付活動 3月に、ふくろうストラップ作成を実施予定 			
	SDGsを踏まえた教育活動の研究	国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの視点を踏まえた全教職員による研究授業<再掲> 一年次生対象のSDGs関連講座の実施 先進校である綾中学校生徒会と合同のリーダー研修会実施 「アジア高校生架け橋プロジェクト」(文科省)による留学生(カンボジア出身)受入れ 	2	<ul style="list-style-type: none"> OSDGsを取り入れた教育は、全国的に展開されていることから、国内の実践事例を参考にし推進して欲しい。 OSDGsに関して、「地域課題と結びついているか?」「今の生活とどうつながっているか?」「自分事とする工夫がなされているか?」気になるところです。理解した上で行動できる生徒を育成していただきたいです。 OSDGsの掲げる目標を個人の日常生活の中でどのように実践していくかということは、私達全てに課せられた課題だと言えます。国連のホームページで、世界のプラスチックゴミの実態を映像で見るだけで胸が痛くなるはずですが、生徒達はこれまで、教科学習を通じて3R等の問題について学習してきました。生徒会活動の一環として目標を設定し、地域の協力を得て、地域ぐるみで取り組むことも「地域学校協働活動」であり、コミュニティ・スクールの本領と言えます。 毎年夏には、高校生の参加する「小村寿太郎顕彰弁論大会」が開催されます。これは、国際連合協会が主催する「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」の宮崎県予選会を兼ねて開催されるもので、優勝者は全国大会に派遣されます。こうした大会にもどしどし応募して、全国レベルで情報発信して欲しいものです。 SDGsの視点を取り入れた教育活動は、中学校も取り組んでいます。中学生と高校生が協働したり、高校生が講師役になったりする機会があるとよいと感じます。 留学生受入れは、異文化を知ることで生徒にとっては刺激になり大変良いことだと思います。 コロナ禍で留学生が来れない状況やホームステイ先の確保など苦労されることと思いますが、継続して受入れてほしいものです。 生きていくこと・生活すること自体がSDGsにつながっていることなので、日頃から意識することを心掛けるため、バッジの着用はどんなことでいいか
情報発信の充実	戦略的な学校情報発信	<ul style="list-style-type: none"> HP プログ 更新58回(R2:47回) 1日体験入学に中3生名参加(R2:105名) 部活動1日体験入学に中学生43名参加(R1:43名) 総合学科実践研究発表会に中学2年生100名が参観 新聞記事掲載約14回、TV放映約11回 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの卒業生の声(先輩たちの活躍)の欄をもっと活用して欲しい。 学校パンフレットがわかりやすく、すばらしいです。中学生や保護者は「教えてセンパイ」に目が行く傾向があるようです。多くの中学校・生徒を掲載すると良いのではないかと思います。 様々なメディアに取り上げられる種まき方が素晴らしいと思います。 発信の中身が大切であり、方法は中身に合わせて工夫していくとよいかなと思います。 学校のアカウントビリティの手段として無視できないのは、マスコミへの情報発信です。昨年12月の「総合学科実践研究発表会」は見事なものでした。生徒達の表情もそれぞれに輝いていて、「総合学科本庄」の面目躍如たるものがありました。しかし、マスコミの扱いは今一ではなかったでしょうか。勿体ない話です。ホームページの充実も勿論ですが、マスコミ対応の専門部署を設置するなどして、年間を通じて学校情報を発信し続ける事は学校の認知度を高める意味からも極めて大切な事だと言えます。 今年の中学生の高校入試に向けた面接指導の中で、「本庄高校の〇〇部でやってみよう」ということを本庄高校の志望理由に挙げる中学生が増えていると感じます。 HPプログラムの更新やマスコミへの発信など積極的に進んでいると思う。 体験入学等の参加は相手方の都合もあり、またコロナ禍での実施となると大変だとは思いますが、「いちいちがし祭」などに招待することはできないのでしょうか。 	
その他	PTAとの連携	PTAの活動	2	2	<ul style="list-style-type: none"> PTA新聞を拝見しましたが写真が多くとてもわかりやすいです。 PTA 総会をオンラインで開催されるなどコロナ禍でもできることを探して進めていく姿勢はコロナが収束してもより良い判断や選択に繋がると思っています。目的がより達成されるよう今後もさらなる工夫が必要となっていくと思います。 学校運営のもう一つの大きな柱は保護者です。地域の期待に応えるとは保護者の期待に応えることとも言えます。保護者の信頼と協力なしに「地域とともにある学校」を建設することは不可能です。しかし少子化時代の今日、保護者は極めて権利意識が過剰であり、とすれば手ごわいクレマーへと変貌しかねません。どうすれば強力な協力者として学校運営に参加してもらえるのか。それは、懇切丁寧なアカウントビリティを果たすとともに、保護者との協働活動の場を数多く設置することです。この協働活動と一緒に取り組むことによって、子どもたちのためという狙いで学校と保護者は思いを同じくすることができ、協働活動を通じて信頼感を醸成しながら学力や進路等個別の問題に切り込んでいく手法が望ましいと思われれます。 コロナ禍で思うような活動ができない中に、感染防止対策等でPTAの皆様がたくさんのご協力をされていることと思います。 コロナ禍での活動は、制約があって思うようにできなかったと思いますので、今後の活動に期待します。

4:十分達成・期待以上 3:概ね達成・ほぼ期待どおり 2:検討の余地あり・やや期待を下回る 1:不十分・改善を要する



分析及び改善策	【学校運営協議委員】	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、昨年に引き続き具体的な取り組みができない中、各項目の目標達成に向けた努力の成果が各所に見られ、大いに評価します。 ホームページの訪問者カウンタは2011年9月から約117万アクセス、うち今年度4月13日からのカウンタは1年も満たないのに約20万アクセスとなっています。それだけ注目度が上がっていると見てとれます。推薦入試の志願者数の大幅増加も納得できます。国公立大学の合格者が増えるとさらにイメージアップにつながると思っています。 遠方通学生徒の支援のための取組は、親元を離れて暮らす高校生を地域で支えていく環境が充実しているからこそと思います。バイク通学についても遠方であり、通学・送迎等に不安のある生徒・保護者に対しては、実態や困難さに応じた緩和策もいずれ含めてよいのではないかと思います。 これからの時代に合う、これからを生きる方々、特に中学生以下の子どもたちを最優先にした学校を目指し、校名変更等、あらゆる手段で魅力化をさらに図っていただきたいと切に願います。 「自校教育」という言葉があります。自分の学校の創立理念、歴史・伝統をしっかりと受け継いでいく教育です。自分の学校を自分の学校として成り立たせている不易のものは何かを見極め、何があってもそれを保守していく教育です。「自校教育」の成果が問われるのは周年行事においてです。しかし、「地域とともにある学校」として本庄高校を今後安定的に持続させていくためには、この「自校教育」に日ごろから注力していく必要があります。「自校教育」は保守する教育ですから、最も大事なことは「変えない」ことです。そのためにまず必要なことは、本庄高校の不易は何かということに対する共通理解です。 太平洋戦争(第二次世界大戦)の敗戦によって大きな価値観の転換を余儀なくされてきた我が国は、長い間「改革」はイコール「改善」であるとされ、変えなくても良いもの乃至は変えてはならないものまで不用意に変えてきました。敗戦に至った戦前のすべての価値観を否定することが善だとする、信仰にも似た考え方が支配的であったからです。しかし、果たして本当に「改革」は全て改善なのでしょうか。「改革」が「改悪」となり、変えたことによって失われたものはないのでしょうか。現在、答えは既に出ています。 学校経営においても、必要なことは「不易」のものを守るためだけに変わるという姿勢です。3年間の県指定を受けて、本庄高校はコミュニティ・スクールとして素晴らしい教育内容を確立してきました。今後は全力を挙げてそれを維持しながら、より一層きめ細かくその中身を充実させていくことだと思います。本庄高校に学ぶ全ての生徒が、自信と誇りをもって確実な未来を手に入れるために、さらなる健闘を祈ります。 総合学科の発表会に中学生と参加しました。本庄高生が、自信と誇りにあふれた表情で活動する姿に、見ている側も大変うれしくなりました。中別府校長先生をはじめ本庄高の先生方が、一人一人の生徒の個性を大切に、新たな可能性を引き出してくださっている成果だと強く感じます。また、高校生生の発表は、中学生の総合的な学習の時間の学習成果のアウトプット(発表等)の参考になります。研究発表とともにファッション・ショーの印象も強く、中学生にも好評でした。今後も地域のよさを生かした学びの機会として大切にしたいと思っています。 総合学科の改編による地域との協働や部活動等の活躍などを通して、本庄高校が地域の活性化に大変大きく貢献していると感じます。地域の未来を考えると、地域の高校で学び、地域社会に貢献しようとする生徒の存在は大変頼もしいと感じます。学習指導要領は「持続可能な社会の創り手」を育てることを学校への課題としています。本庄高等学校の現在の取組は、その課題への対応となるものと考えます。 本庄高生と中学生が協働したり、或いは高校生を講師役としたりするような活動を、何か創造できると互いの学びの質が向上するのではないかと感じます。 昨年に引き続き、コロナ禍で思うような取り組みができなかったことと思いますが、今年の推薦入試の出願者が昨年の4倍近くになったことは、今までの成果が少なからず出てきたものと考えます。また、くにとみ察の開設で有望な生徒も入学することによって、ますます部活動の活躍も期待され、本庄高校が注目を集めるものと思います。 高校生の姿を見ると青春を感じ、若さをもらい町も元気になります。東諸地域で唯一の高校を存続させるため、本庄高校の魅力を積極的に発信してください。 	【学校】	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の会議のみでは、学校運営協議委員の方に学校の評価をしていただくのは非常に申し訳ない部分があった。より本校の実態を伝えられるような資料の提示や、定期的な資料の提供を行う必要があったと感じる。本校のホームページのブログにおいて定期的な情報更新しているのに、更新した時に見てもらえるような手立てを考える必要があった。 また、委員からの評価において、重点目標の一つである「本校の特色・魅力づくり」においては高い評価をいただいた。次年度においても今年度を踏襲し更に積極的な魅力づくりを継続していきたい。反面、「学力・専門性の向上」においてはまだまだ検討の余地があると考えます。 今後は委員の意見を取り入れながら見直しをおこない取り組み必要性を感じた。また、コミュニティ・スクールのモデル校としての多くの取り組みについて昨年度は非常に高評価をいただいたが、今年度は、特に新型コロナウイルスの影響で、予定していた取り組みが実施できなかったことも多くあった。そういった中で、新しいアイデアを出し、新しい形の校内ボランティアを確立できたことは収穫であった。これは本校の、コミュニティ・スクールのサポートスタッフである井戸川先生の功績が大きい。 今後も地域と連携し地域資源を活用した取り組みを実施していくことで、地域に信頼される学校になるのではないかと考えている。今後も「地域で活躍し、地元をリードする人材の育成」に向けた取り組みを職員一丸となって実施していきたい。
---------	------------	--	------	---